

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200152		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松根洗 (第1ユニット)		
所在地	静岡県浜松市北区根洗町738-2		
自己評価作成日	平成27年 6月30 日	評価結果市町村受理日	平成27年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2297200152-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年7月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の豊かな生活実現の向けて、ご利用者様やご家族様から要望を伺いケアプランに反映し実践している。6月28日は5周年記念祭の中に、家族会を企画し23名の方が出席してください。ご意見・ご要望が活発に発言され新たな課題も抽出できた。身体機能が維持でき、認知症の進行が予防できるよう屋外活動も多く企画している。個別対応では楽しみのある生活の中に、大衆演劇の鑑賞・外食なども取り入れている。認知症カフェを通じて、近隣GHとの交流も始まった。最後まで自分らしく生きるために一瞬一瞬がかけがえのない時間と認識し、支援させていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から5年を経て本年は周年記念を家族と共に祝いました。正月に提供したおせち料理を再現したり、グループを3つに分けて会話が弾むようにと工夫を凝らしており、記録からも忌憚のない意見交換があったことを視認できました。そのなかにあった「入浴回数を増やしてほしい」との声に職員間で話し合い月4回増につなげたことは事業所の改革精神と実践力のほんの一例です。転職者の中にはダブルチェックやケアプランの堅固な取組みに驚き「面倒だ」という職員もいますが、短期間で一人前にする仕組みの下、初任者研修やタクティールケアの補助制度のエールに支えられて人材も育ち、定着率の高さが安心感に醸成されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎朝朝礼にて唱和し、主軸が揺らがないようにしている。イベントを行い地域の方々との交流も増えている。	「その人らしい～」「親切なサービス～」は、資格取得を費用負担する施策が基盤となり推進されています。「地域の人とのふれ合い～」は認知症カフェを展開する事業所への見学も果たし、前進への姿勢がみられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の夏祭りへの参加も毎年恒例になり、地域の方々の協力もいただいている。今後は認知症の方の生活を理解していただく活動やタクティールケアを通じて更に交流を深めたい。	利用者の作品を販売するフリーマーケットを本年初めて運営し、経済活動に関わる喜びにつながりました。また園児との交流は新しいゲーム企画の誕生契機となり、参画意欲の醸成となっています。	近隣の施設職員からタクティールケアの施術希望の声も挙がっていることから、ぜひ拡がりを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の催しや地域包括支援センターが行う介護相談教室に参加し理解を深めている。認知症の方を地域で支える事業所として同業者との交流も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の状況・活動内容を詳細に報告している。行政や包括支援センター、自治会、福祉会、介護相談員、近隣施設、ご家族様など多くの方々に出席していただき意見をいただいている。	地域や行政の担当者のほか、家族も持ち回りで参加しています。定期開催の運営推進会議を通じた親交により、自治会からは行事に必要なテントや椅子を借りることができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の方には、介護保険に関わる改定や地域の高齢者の人口変動などわかりやすく情報をいただいている。特に認知症の方を地域で支える活動は事業者会議で共有している。	運営推進会議へも足を運んでくださり、また高齢化の状況を地域毎のデータで示してもらえたり、きめ細かな指導及びフォローを受けることができおり、そのおかげで事業所同士の情報交換も密となっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における全体研修を行い、身体拘束が起こらないよう努めている。また、ケアや見守り体制を振り返り、身体拘束0を実践している。	職員間で学習すると「えっ、これ知らなかったの?」といった場面もあることから、繰り返し積み重ねていくことを大切にしています。また知識だけでなく、その場のその人の気持ちに注視することを推奨していて、フォーカスを替える支援もおこなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修プログラムに入れ学習している。ネットによる最近の情報や傾向など折込み虐待行為が発生しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修プログラムに入れ学習している。各スタッフがポイントはしっかり抑えられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・改定などは1回の説明では理解が困難な内容があるため、ご面会に来られた機会を利用して説明を加えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が自由にご意見・ご要望を発言できるよう5周年記念祭を利用して家族会を開催した。運営の繁栄と共にサービスの質向上に向けて取り組んでいる。	本部で年2回、外部評価で1回とアンケートが頻繁にあり、結果についてマネジメントサイクルにのせることができています。5周年記念の家族会でもフリーダムな意見交換がある様子を书面視認しました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談を通じて、個人の目指しているGHや提案を聞き、新しい取り組み(フリーマーケット開催・タクティールケア)にも挑戦している。	同法人県内9事業所の職員が集う実践研究発表がおこなわれる制度が克己となり、利用者作品を並べるフリーマーケット企画に実を結んだ例もあり、「やりたい」との発言に留まらず、実体のあるものとなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務を見直したり、意欲を持って積極的に業務が遂行できるよう働きかけている。各自のアイデアは目的を確認し、実現できるように対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の他に、認定資格取得を目指して取り組んでいる。個人のやる気にも繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のGHで認知症カフェを開催している情報をいただき訪問させていただいた。交流を深め今後のサービス向上にも繋がる機会となった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期においては、ご家族様やサービス利用関係者からも情報をいただき、安心・安全な環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者様のその人らしい生活を維持して頂くために、契約の段階から生活に対する要望を伺っている。ケアプランにも反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階においては、環境への適応を優先している。安心して居心地が良い生活の場所と認識して頂けるよう対応に努めている。ご利用者様の好きな事、物に関わることも大きい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方のレベルに応じて支援方法を模索し、一緒に家事の手伝いをやっていたり、楽しい生活の支援に努めている。その方の力が発揮できるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様・ご家族様が要望される生活を重視し、ケアプランに取り入れている。毎年ご利用者様とご家族様が楽しく触れ合える行事を企画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員ばかりでなく、ご家族様も馴染みの方との関係作りを企画されることがある。日常の会話の中に何気なく地域の事や若き日の生活の事を伺っている。話が盛り上がるよう努めている。	近くの霊園に伴侶が眠る人は散歩も兼ねてでかけています。また送迎を職員が取組むことで趣味の教室や大衆演劇に通えるとの実績もあります。本年は認知症カフェへの訪問が継続支援に加わりました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくご利用者様同士がフロアで楽しく過ごしていただいたり、役割を担っていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方(医療・療養系に入院中)のお見舞いに行ったり、ご家族様からその後の経過のご連絡やお手紙をいただいている。相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動や表情から、時にはご本人へ直接お伺い思いの把握に努めている。意向の把握が難しい方に対しては、その方の立場になり思いを想像するよう努めている。	予め意向を確認したうえでユニット会議には利用者も同席しています。想いを記録するシートに些細なことでも記し、また担当制のメリットを発揮し外出も少人数でタイムリーに実現しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やサービス事業所より情報の提供や会話の中から生活歴・環境を引き出し、これまでの暮らしの継続に向けて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知面・身体面を把握し、その方に応じた生活ペースに合わせ、役割や活動へとお誘いしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の暮らし・過ごし方や活動への取り組み状況を話し合い、その方の楽しみは何か、穏やかな気持ちで過ごしていただく為の生活を検討し計画に取り入れている。	援助内容の欄にはいくつか商品名が踊り、「具体的に」との意志が伝わってきます。初期入所では1ヶ月間仮制作され、状況や要望がより明瞭になった時点でさらに「その人」が際立った個別プランが作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践結果や気づき、ご利用者様の反応の様子を介護記録へ記入し、計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気づきを大切に、新たなニーズに対し、ご家族様とも相談しながら、支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園や障害施設の方々と交流を深め行事の参加をさせて頂いている。また、フリーマーケットを当ホームで開催し交流を深めている。新たに他のグループホームとの交流も導入している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異常の早期発見に努め、協力医と連携をとり早期受診を行っている。症状によっては紹介状を記入して頂き総合病院を受診することがある。	協力医と訪問医各々月1回の診療があり、また管理者が看護師ということも相まって状況把握が確かです。近隣に総合病院があることから職員が送迎サービスをおこなえるため家族から喜ばれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の健康に問題がある時は、スタッフが早期にホーム長兼看護師に連絡し対応している。骨折疑いや意識レベル・呼吸状態の異常時は救急車要請を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状の説明の時には、ホームの看護師やスタッフが同席させていただき早期にホームへ戻ってきていただくよう努めている。ご家族様や相談員との連携も密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にも「重度化した場合の対応にかかる指針」を用い説明している。状況に合わせてご利用者様やご家族様に不安な気持ちが発生しないよう慎重な対応をしている。	食事が全介助であっても医療行為が必要な場合は受入れており、「此处で最期までお願いします」との意向を反映し、看取りも積極的におこなう考えです。また、難局には家族と相談しつつ、あらゆるパターンを検討して利用者の居場所を確保した例もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応を研修に取り入れ、スタッフの周知を行っている。消防隊員の指導を仰ぎながら定期的にAEDの使い方を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣施設の方にも協力をいただき、防災訓練に参加して頂いている。交流を通じて互いに協力体制が構築できるよう努めている。	本年初めて地域の人が防災訓練に駆けつけてくれ、動線の見直しや搬送方法に第三者の眼による改善がありました。また、避難担保のためのチョークチェックをはじめ外部研修での知識がもれなく実践されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に敬語を用い、人格を尊重し表情や口調にも配慮し声掛けを行っている。	職員が乱暴な口調とならないように「何気ない関わりの中にも適正な言葉掛けがおこなわれているか」、管理者とユニットリーダーが目配りしています。相応しくない言動については、後に会議を通じて解決に至っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様との会話の中で、自然に思いや希望が把握できるよう努めている。また、依頼する時には、断ることが出来る選択肢がある声掛けをするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身のペースでゆっくりと過ごしていただけるようさり気ない見守りを行い、またご家族様の要望も踏まえた過ごし方の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には身だしなみを整え、整容のチェックを行っている。ご自身で衣類選択が出来ない方には、着易さや気温に適した衣類を選ぶ等の配慮をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の意欲や認知面を考慮し、役割を分担し味噌汁作りや盛り付け、準備・片付けを行っている。食事の見た目や配膳にも気を配り、食事中においても、会話弾ませ、楽しい雰囲気になるように努めている。	敷地内のミニ農園で採れた作物を利用することも楽しみとし、赤や緑の彩りも豊かです。少し暑そうにふうふうしながら、料理を振舞った自分を誇らしく満足気な様子の利用者にも出会いました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要量を摂取して頂けるよう個別に食事形態を工夫し、出来る限りご自身の力で召し上がっていただく事が出来るようサポートしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な訪問歯科と夕食後にはご利用者様の状況に合わせた方法により、自立を促しながら口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄に努め、仕草・表情からのサインを受け止め、トイレ誘導を行っている。ご利用者様のプライバシーや羞恥心に配慮し、個々の排泄状況を把握し、自立にむけて支援している。	しぐさからの対応とともに定時誘導もおこなっています。全ての便座には両脇に手摺が設置され、立ち上がりの補助が自立を促しています。頻回な清掃に安全に配慮した薬剤を以て臭いは一切ありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夕食の味噌汁に、乳酸菌を入れ自然な排便へと繋げる事出来るよう取り組んでいる。定期的に散歩へとお誘いし、運動へと働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望するタイミングに合わせての入浴は実施されていない。入浴時間などは、身体の負担を考慮しながら、好みの時間で入れるよう配慮している。	家族から「回数を増やして欲しい」との希望があり、会議での協議を経て、従来整容に充てていた曜日を見直すことで1回増やし、週3回となりました。入浴前に気分高揚となるメニューを用意したり、造花も置いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量・休息ともバランスをとりながら、夜間の安眠に繋げる事が出来るようサポートしている。また寝具の清潔や室温の調整にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて内服されている薬への理解に努め、薬の変更や追加の際は周知を図り、症状の変化の観察を行っている。変化が見られる際はホーム看護師や担当医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴や習慣をもとに、家事や趣味、手慣れた作業へとお誘いし、楽しみや役割へと繋げている。作業を通じて昔を懐かしまれ、会話も弾まれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の人員体制が困難なこともあり、その日の希望に沿っての外出はなされていない。本人の希望を把握し、計画を立てゆっくりと出掛けられるよう支援している。馴染みの場所への外出支援も行っている。	ケア日報には外出欄があり、頻度が記載されています。また、カレンダーには散歩できた利用者の名前を付箋紙で示し、偏りが起こらないようにしています。全員での苺狩り、個別での観劇、野菜の収穫、幼稚園訪問と戸外プログラムが満載です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状に伴う混乱や管理がしっかりできないため、ご利用者様によるお金の所持はない。イベントや個人の買い物時は、ご利用者様が好きな物を選び代金を支払えるよう支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にも協力をいただき、ご利用者様が希望されれば対応していただいている。手紙が来る方はとてもうれしい表情をさせている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、ご利用者様の作品を中心に掲示して意欲に繋げている。季節感のあるディスプレイは美化委員が中心となりご利用者様と一緒に作成している。清掃をしっかり行い、異臭特にトイレ臭における不快感がないよう努めている。	至るところが清潔で整然としており、トイレやキッチン、脱衣所といった菌が増殖するエリアは特に行き届いています。冷蔵庫やテレビの転倒対策、居室前には避難トリアージ表示もあり、リスクマネジメントも施されています。	1階入り口の感染症対策の告知は、通年用に張り替えることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席はご利用者様同士が自然な状況で互いにコミュニケーションできるよう配慮している。また、ソファの位置も利用者様自身が選択して座れる場所に配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に協力をいただき、使い慣れた生活用具をお部屋に持ち込んでいただいている。ご利用者様がほっと安心できる居室は、プライバシーを考慮した上でも大切な場所と認識している。	持ち込みを奨励していますが、入居当時はテレビや冷蔵庫があった人も症状の進行で「もう要らないね」と家族が持ち帰ってしまった居室もあります。身体状況に応じてベッドから蒲団に変更した人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境面においては、掲示物においてもご利用者の目線でわかりやすい表示を行っている。異食や転倒事故が起こらないよう安全な環境作りに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200152		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松根洗 (第2ユニット)		
所在地	静岡県浜松市北区根洗町738-2		
自己評価作成日	平成27年 6月30 日	評価結果市町村受理日	平成27年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2297200152-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年7月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の豊かな生活実現の向けて、ご利用者様やご家族様から要望を伺いケアプランに反映し実践している。6月28日は5周年記念祭の中に、家族会を企画し23名の方が出席してください。ご意見・ご要望が活発に発言され新たな課題も抽出できた。身体機能が維持でき、認知症の進行が予防できるよう屋外活動も多く企画している。個別対応では楽しみのある生活の中に、大衆演劇の鑑賞・外食なども取り入れている。認知症カフェを通じて、近隣GHとの交流も始まった。最後まで自分らしく生きるために一瞬一瞬がかけがえのない時間と認識し、支援させていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から5年を経て本年は周年記念を家族と共に祝いました。正月に提供したおせち料理を再現したり、グループを3つに分けて会話が弾むようにと工夫を凝らしており、記録からも忌憚のない意見交換があったことを視認できました。そのなかにあった「入浴回数を増やしてほしい」との声に職員間で話し合い月4回増につなげたことは事業所の改革精神と実践力のほんの一例です。転職者の中にはダブルチェックやケアプランの堅固な取組みに驚き「面倒だ」という職員もいますが、短期間で一人前にする仕組みの下、初任者研修やタクティールケアの補助制度のエールに支えられて人材も育ち、定着率の高さが安心感に醸成されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎朝朝礼にて唱和し、主軸が揺らがないようにしている。イベントを行い地域の方々との交流も増えている。	「その人らしい～」「親切なサービス～」は、資格取得を費用負担する施策が基盤となり推進されています。「地域の人とのふれ合い～」は認知症カフェを展開する事業所への見学も果たし、前進への姿勢がみられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の夏祭りへの参加も毎年恒例になり、地域の方々の協力もいただいている。今後は認知症の方の生活を理解していただく活動やタクティールケアを通じて更に交流を深めたい。	利用者の作品を販売するフリーマーケットを本年初めて運営し、経済活動に関わる喜びにつながりました。また園児との交流は新しいゲーム企画の誕生契機となり、参画意欲の醸成となっています。	近隣の施設職員からタクティールケアの施術希望の声も挙がっていることから、ぜひ拡がりを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の催しや地域包括支援センターが行う介護相談教室に参加し理解を深めている。認知症の方を地域で支える事業所として同業者との交流も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の状況・活動内容を詳細に報告している。行政や包括支援センター、自治会、福祉介護相談員、近隣施設、ご家族様など多くの方々に出席していただき意見をいただいている。	地域や行政の担当者のほか、家族も持ち回りで参加しています。定期開催の運営推進会議を通じた親交により、自治会からは行事に必要なテントや椅子を借りることができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の方には、介護保険に関わる改定や地域の高齢者の人口変動などわかりやすく情報をいただいている。特に認知症の方を地域で支える活動は事業者会議で共有している。	運営推進会議へも足を運んでくださり、また高齢化の状況を地域毎のデータで示してもらえたり、きめ細かな指導及びフォローを受けることができおり、そのおかげで事業所同士の情報交換も密となっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における全体研修を行い、身体拘束が起こらないよう努めている。また、ケアや見守りの体制を見直し日頃の具体的なケアを見直している。	職員間で学習すると「えっ、これ知らなかったの?」といった場面もあることから、繰り返し積み重ねていくことを大切にしています。また知識だけでなく、その場のその人の気持ちに注視することを推奨していて、フォーカスを替える支援もおこなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修プログラムに入れ学習している。ネットによる最近の情報や傾向など折込み虐待行為が発生しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修プログラムに入れ学習している。各スタッフがポイントはしっかり抑えられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・改定などは1回の説明では理解が困難な内容があるため、ご面会に来られた機会を利用して説明を加えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が自由にご意見・ご要望を発言できるよう5周年記念祭を利用して家族会を開催した。運営の繁栄と共にサービスの質向上に向けて取り組んでいる。	本部で年2回、外部評価で1回とアンケートが頻繁にあり、結果についてマネジメントサイクルにのせることができています。5周年記念の家族会でもフリーダムな意見交換がある様子を书面視認しました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談を通じて、個人の目指しているGHや提案を聞き、新しい取り組み(フリーマーケット開催・タクティールケア)にも挑戦している。	同法人県内9事業所の職員が集う実践研究発表がおこなわれる制度が克己となり、利用者作品を並べるフリーマーケット企画に実を結んだ例もあり、「やりたい」との発言に留まらず、実体のあるものとなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務を見直したり、意欲を持って積極的に業務が遂行できるよう働きかけている。各自のアイデアは目的を確認し、実現できるように対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の他に、認定資格取得を目指して取り組んでいる。個人のやる気にも繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のGHで認知症カフェを開催している情報をいただき訪問させていただいた。交流を深め今後のサービス向上にも繋がる機会となった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期においては、ご家族様やサービス利用関係者からも情報をいただき、安心・安全な環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者様のその人らしい生活を維持して頂くために、契約の段階から生活に対する要望を伺っている。ケアプランにも反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階においては、環境への適応を優先している。安心して居心地が良い生活の場所と認識して頂けるよう対応に努めている。ご利用者様の好きな事、物に関わることも大きい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方のレベルに応じて支援方法を模索し、一緒に家事の手伝いをやっていたり、楽しい生活の支援に努めている。その方の力が発揮できるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様・ご家族様が要望される生活を重視し、ケアプランに取り入れている。毎年ご利用者様とご家族様が楽しく触れ合える行事を企画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員ばかりでなく、ご家族様も馴染みの方との関係作りを企画されることがある。日常の会話の中に何気なく地域の事や若き日の生活の事を伺っている。話が盛り上がるよう努めている。	近くの霊園に伴侶が眠る人は散歩も兼ねてでかけています。また送迎を職員が取組むことで趣味の教室や大衆演劇に通えるとの実績もあります。本年は認知症カフェへの訪問が継続支援に加わりました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくご利用者様同士がフロアで楽しく過ごしていただいたり、役割を担っていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方(医療・療養系に入院中)のお見舞いに行ったり、ご家族様からその後の経過のご連絡やお手紙をいただいている。相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの想いや希望・意向の把握に努めている。実現可能なものは検討し実施している。困難な場合は、代替案を模索している。	予め意向を確認したうえでユニット会議には利用者も同席しています。想いを記録するシートに些細なことでも記し、また担当制のメリットを発揮し外出も少人数でタイムリーに実現しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様との会話の中から、以前の暮らしや好きなこと等、自然な形で情報収集に努めている。面会にいらしたご家族様からも生活歴などをお聴きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の中での役割や過ごし方を把握し、提供している。また、その日の心身状態により適切な提供が出来るよう配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議のみならず、都度話し合いアイデアを出し合っている。一人ひとりに即した介護計画を立て、情報共有に努めている。	援助内容の欄にはいくつか商品名が踊り、「具体的に」との意志が伝わってきます。初期入所では1ヶ月間仮制作され、状況や要望がより明瞭になった時点でさらに「その人」が際立った個別プランが作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録には、実践・結果のみならず、小さな気づき・その方の反応・普段との違いなど、詳しく記入している。伝わりにくい場合は、聞き取りをするなど情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のふとした言葉の裏にある真のニーズの把握に努め、出来る限り対応できるよう柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園や障害施設の方々と交流を深め行事の参加をさせて頂いている。また、フリーマーケットを当ホームで開催し交流を深めている。新たに他のグループホームとの交流も導入している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異常の早期発見に努め、協力医と連携をとり早期受診を行っている。症状によっては紹介状を記入して頂き総合病院を受診することがある。	協力医と訪問医各々月1回の診療があり、また管理者が看護師ということも相まって状況把握が確かです。近隣に総合病院があることから職員が送迎サービスをおこなえるため家族から喜ばれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の健康に問題がある時は、スタッフが早期にホーム長兼看護師に連絡し対応している。骨折疑いや意識レベル・呼吸状態の異常時は救急車要請を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状の説明の時には、ホームの看護師やスタッフも同席させていただき早期にホームへ戻って生活できるよう努めている。ご家族様や相談員との連携も密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にも「重度化した場合の対応にかかる指針」を用い説明している。状況に合わせてご利用者様やご家族様に不安な気持ちが発生しないよう慎重な対応をしている。	食事が全介助であっても医療行為が必要な場合は受入れており、「此処で最期までお願いします」との意向を反映し、看取りも積極的におこなう考えです。現在2階フロアは重度化が進んだ利用者が増えつつあるため、着替えをはじめ生活介助について方法に工夫しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応を研修に取り入れ、スタッフの周知を行っている。消防隊員の指導を仰ぎながら定期的にAEDの使い方方を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣施設の方にも協力をいただき、防災訓練に参加して頂いている。交流を通じて互いに協力体制が構築できるよう努めている。	本年初めて地域の人が防災訓練に駆けつけてくれ、動線の見直しや搬送方法に第三者の眼による改善がありました。また、避難担保のためのチョークチェックをはじめ外部研修での知識がもれなく実践されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声掛けをするよう努めている。親しみを持った言葉となれなれない言葉を混同しないように努めている。	職員が乱暴な口調とならないように「何気ない関わりの中にも適正な言葉掛けがおこなわれているか」、管理者とユニットリーダーが目配りしています。相応しくない言動については、後に会議を通じて解決に至っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様との会話の中で、自然に思いや希望が把握できるよう努めている。また、依頼する時には、断ることが出来る選択肢がある声掛けをするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にせず、「待つ」時間も重視している。希望があれば、出来る限り実現できるよう努め、出来ない場合は希望のある声掛けをし、楽しみとして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後や洗面後の身だしなみは、その方が気分よく・納得されるまでして頂いている。衣類については、自己決定できる方にはご自分で選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの残存能力やお好み・認知面に配慮し、食事準備や片付けなど職員と一緒に出来るよう支援している。楽しい雰囲気での食事が出来るよう配慮している。	敷地内のミニ農園で採れた作物を利用することも楽しみとし、赤や緑の彩りも豊かです。少し暑そうにふうふうしながら、料理を振舞った自分を誇らしく満足気な様子の利用者にも出会いました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、栄養バランスがとれた食事を提供している。一人ひとりの食事量・食事形態・残存能力・嗜好に配慮し、水分量・栄養摂取量が不足しないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは実践されていない。入床前には一人ひとりに合った口腔ケア方法で、歯磨き・義歯消毒・含嗽法など確実にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや適切な下着の選択をしている。羞恥心や尿・便失禁に対してもご利用者の気持ちになって対応している。また、行動やしぐさに着目しトイレ誘導するなどさり気ない声掛けを行っている。	しぐさからの対応とともに定時誘導もおこなっています。全ての便座には両脇に手摺が設置され、立ち上がりの補助が自立を促しています。頻回な清掃に安全に配慮した薬剤を以て臭いは一切ありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夕食の味噌汁に、乳酸菌を入れ自然な排便へと繋げる事が出来るよう取り組んでいる。定期的に散歩へとお誘いし、運動へと働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日については職員が決めているが、希望・タイミングはご本人に決定して頂いている。残存能力や羞恥心に配慮し、その方の入浴支援を行っている。	家族から「回数を増やして欲しい」との希望があり、会議での協議を経て、従来整容に充てていた曜日を見直すことで1回増やし、週3回となりました。入浴前に気分高揚となるメニューを用意したり、造花も置いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量・休息ともバランスをとりながら、夜間の安眠に繋げる事が出来るようサポートしている。また寝具の清潔や室温の調整にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのお薬の効果や注意点を把握し介助している。ご利用者様が服薬しやすい方法でサポートし、服薬マニュアルに沿った適切な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのストレンスを活かした役割を提供し、感謝の言葉を申し上げ次に繋げるよう努めている。また、散歩・ドライブ・外食など、楽しみを感じて頂ける支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩はご希望に添えるよう努めている。普段行けないような場所については、十分に検討、一人ひとりの希望が実現できるよう支援している。	ケア日報には外出欄があり、頻度が記載されています。また、カレンダーには散歩できた利用者の名前を付箋紙で示し、偏りが起こらないようにしています。全員での苺狩り、個別での観劇、野菜の収穫、幼稚園訪問と戸外プログラムが満載です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状に伴う混乱や管理がしっかりできないため、ご利用者様によるお金の所持はない。イベントや個人の買い物時は、ご利用者様が好きな物を選び代金を支払えるよう支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にも協力をいただき、ご利用者様が希望されれば対応していただいている。手紙が来る方はとてもうれしい表情をさせている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、ご利用者様の作品を中心に掲示して意欲に繋げている。季節感のあるディスプレイは美化委員が中心となりご利用者様と一緒に作成している。清掃をしっかり行い、異臭特にトイレ臭における不快感がないよう努めている。	至るところが清潔で整然としており、トイレやキッチン、脱衣所といった菌が増殖するエリアは特に行き届いています。冷蔵庫やテレビの転倒対策、居室前には避難トリアージ表示もあり、リスクマネジメントも施されています。	2階のエントランスは利用者の習慣に準じてテーブルを購入したとの工夫がありますが、さらに1歩進んで家族をはじめとする訪問者が「少し此处で休もうかな」と思えるような空間になることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席はご利用者様同士が自然な状況で互いにコミュニケーションできるよう配慮している。また、ソファは利用者様自身が選択して座れる場所に配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に協力をいただき、使い慣れた生活用具をお部屋に持ち込んでいただいている。ご利用者様がほっと安心できる居室は、プライバシーを考慮した上でも大切な場所と認識している。	持ち込みを奨励していますが、入居当時はテレビや冷蔵庫があった人も症状の進行で「もう要らないね」と家族が持ち帰ってしまった居室もあります。身体状況に応じてベッドから蒲団に変更した人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境面においては、掲示物においてもご利用者の目線でわかりやすい表示を行っている。異食や転倒事故が起こらないよう安全な環境作りに努めている。		